

まさのさわ
マサノ沢遺跡 (本発掘調査B)

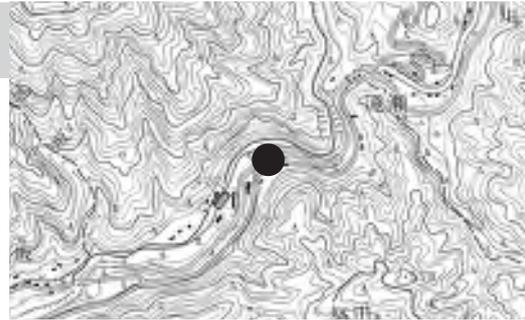
所在地 北設楽郡設楽町小松字マサノサワ
(北緯35度07分04秒 東経137度34分35秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和4年12月～令和5年2月

調査面積 1000㎡

担当者 永井宏幸・社本有弥



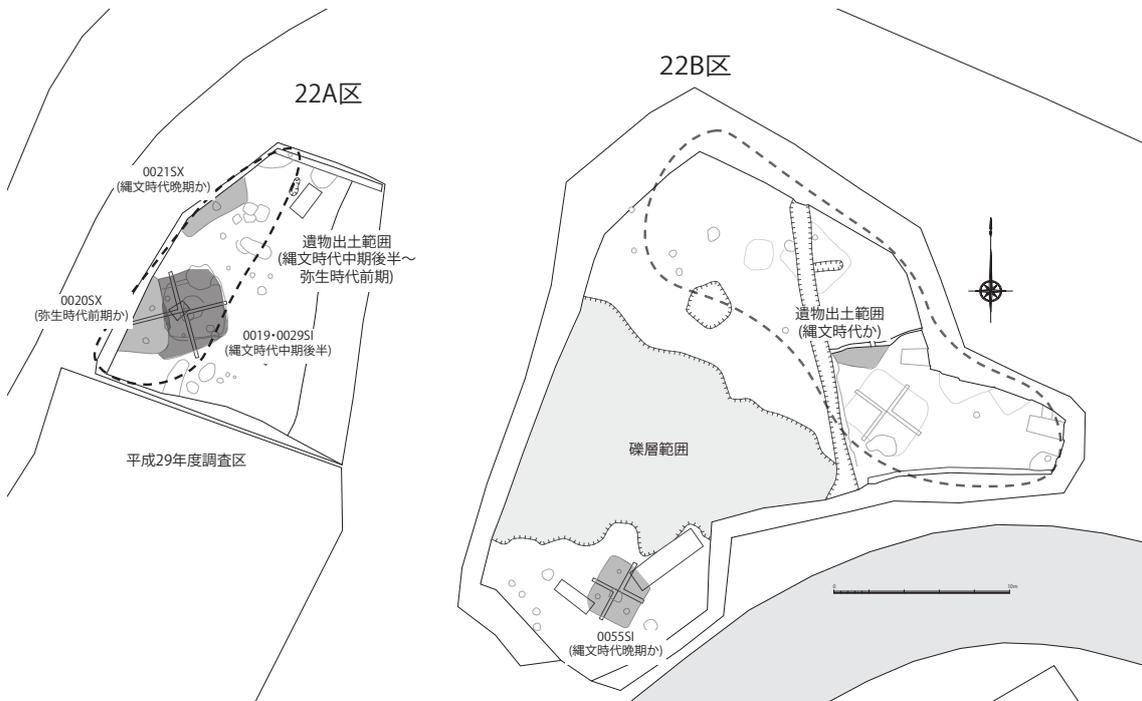
調査地点 (1/2.5万「田口」)

調査の経過 発掘調査は設楽ダムに伴う事前事業として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所から愛知県民文化局を通じた委託事業として、令和4年12月から令和5年2月にかけて実施した。調査区は上段・下段に別れており、下段を22A区、上段を22B区として調査を行なった。

立地と環境 遺跡は、豊川水系に属する寒狭川の支流である境川の左岸に形成された幅狭な段丘面に位置する。遺跡付近は山腹に造成された県道によって地形が改変されたものの、境川が大きく蛇行する地点にあたり、北東から南西にかけて広がる緩やかな緩斜面に立地する。

調査の概要 22A区は西側で遺構・遺物を確認した。特に堅穴建物跡0029SIは長径約70cm、深さ60cmの大型の石囲炉が見つかり、炉の埋土から縄文時代中期後半にあたる土器片が出土している。炉の東には炭化物と被熱した土が入った土坑状の落ち込みがあり、おそらく副炉のような施設があった痕跡ではないかと考えられる。

22B区では東部で遺物の出土があり、大型の土坑や堅穴状遺構が確認されている。0055SXでは埋土から縄文時代晩期の土器片が出土している。それ以外の遺構も縄文時代のものと思われるが、時期のわかる遺物は確認されていない。(社本有弥)



マサノ沢遺跡全体図 (1/500)